

2022年  
8月22日 No.1669



週刊

# 教育資料

EDUCATIONAL PUBLIC OPINION <http://www.kyoiku-shiryo.co.jp>



潮流

## 「主役は子ども、きっかけは大人」

認定NPO法人キーパーソン21代表理事 朝山あつこ

資料

## 令和4年度全国学力・学習状況調査の結果①

文部科学省

### CONTENTS

#### ▶ 2 潮流

「主役は子ども、きっかけは大人」

朝山あつこ(認定NPO法人キーパーソン21代表理事)

#### ▶ 5 解説・ニュースの焦点

○人文・社会科学系大学院教育改革で「中間とりまとめ」

○教育データ利活用の安全確保で「Q&A」作成へ

編集部

#### ▶ 8 特別企画

1人1台端末、公立図書館とどう連携？

#### ▶ 10 校長講話

平和を守る大切さを訴える校長講話

西林幸三郎(大阪聖徳学園理事教育参与・教授)

#### ▶ 12 生涯発達時代のよくわかる！発達障がい入門

ICT活用の理論と実践①—理論編—

水内豊和(帝京大学文学部心理学科准教授)

#### ▶ 14 君たちが18歳になる前に

現代は「二人前」で大人？(2)

—これからの時代と求められる能力—

安藤 博(子ども法学者)

#### ▶ 16 実践！校長塾

生徒と交流し思いを聞き取る学校経営

一ノ宮賢了(滋賀県・米原市立米原中学校校長)

#### ▶ 19 資料

令和4年度全国学力・学習状況調査の結果①

文部科学省

#### ▶ 33 Voice

#### ▶ 35 教育問題法律相談

SNS上での誹謗中傷と、侮辱罪の改正

三坂彰彦(弁護士)

#### ▶ 36 学校事務新時代

地域協働——地域連携チームにおいて事務職員が果たせる役割②  
地域連携チームの一員としての事務職員像  
(学校運営協議会編)

松井政徳(愛知県・瀬戸市立瀬戸特別支援学校事務職員)

#### ▶ 38 「学級・授業づくり」虎の巻

「リフレーミング」で見方を変える

俵原正仁(兵庫県芦屋市立山手小学校校長)

#### ▶ 40 管理職養成 教頭実務ガイダンス

校長との連携

井部良一(全国公立学校教頭会事務局長)

#### ▶ 42 高校現場最前線

総合的な探究を軸としたキャリア教育の推進

晴山 俊(岩手県立山田高等学校校長)

#### ▶ 44 現場の課題に答える教育機関

これからの生徒指導・教育相談・特別支援に対応

栗原慎二(公益社団法人学校教育開発研究所代表理事)④

#### ▶ 46 英語教育羅針盤

英語教員に知っておいてほしいこと⑨

英語教育で育てる基礎力、思考力、実践力

杉浦理恵(東海大学国際文化学部教授)

#### ▶ 47 BOOK

『春香る町から 心がほっとするちょっといい話』

『誰がために医師はいる クスリとヒトの現代論』

#### ▶ 48 自著を語る

『データサイエンスが求める「新しい」数学力

AI、データ分析が壊す文系理系の壁』

宮本さおり(ジャーナリスト)

#### ▶ 51 品川裕香の共感教室

安倍元総理の事件で報道を見聞きした

子どもたちの苦しさ 後編

品川裕香(教育ジャーナリスト)

#### ▶ 52 マイオピニオン

「非認知的能力」と「心でっかち」な日本の学校

石井英真(京都大学大学院教育学研究科准教授)

# 潮流

認定NPO法人キーパーソン21代表理事

あさやま  
朝山あつこさんに聞く



撮影：浅葉美穂

「主役は子ども、  
きっかけは大人」

「キャリア教育」が広がる以前から  
一人一人の子どもの可能性を引き出し、  
「やってみたい」を応援する  
教育プログラムを実践してきた。

## 生き方学習の教育NPOとして創設

キャリア教育とは、「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」のこと。文部科学省の協力者会議が報告書を出した2004（平成16）年が、一般的に「キャリア教育元年」とされている。それよりも早く、2000年に「全ての子どもたちが自分を活かして、生き生きと仕事をして生きていつてほしい」という思いから「生き方学習」の教育NPOとして創設されたのが「キーパーソン21」だ。現在は、キャリア教育プログラムの開発やファシリテーターの養成、学校などでのキャリア教育プログラムの実施、パートナーシップ提携による全国各地への普及のほか、先生向けの研修や講演活動なども進めてきた。

朝山 私たちのキャリア教育のプログラムでは、今ある社会の枠組みに子どもを当てはめるのではなく、子どもの中にあるものを引き出しながら、クリエイティビティ（創造性）を発揮させていくことを重視しています。キャリア教育というと、成功している大人の話を聞いたり、職場の体験をさせることも必要でしょうが、それだけでは今

の社会を超える力を子どもたちが身に付けることは難しいと思うからです。今ある社会を知るだけでなく、まず「自分を知る」こと、その上で、社会とどうつながり、自分を活かすことができるかを考えることが、その子どもの自律を促します。こうした考えに賛同をいただいた全国の学校や自治体、PTAや子ども食堂などの地域で活動しているさまざまな団体、応援してくださる企業などと連携して、これまで活動を続けてきました。

「一歩、踏み込んだキャリア教育」を子どもたちに届けるために大切にしているのが「わくわくエンジン」という捉え方だ。例えば、今までに気付かなかった「自分らしさ」が見えてくると、子どもだけでなく大人でも自ら動き出す能動性を発揮する。その原動力となるものが「わくわくエンジン」だ。それを引き出して、応援している。

朝山 「野球にわくわくする」理由も、A君は「作戦や戦略を立てること」に、B君は「チームが何かを達成するために自分が役に立っていること」などと、子どもによっても違います。例えば、こんなことがありました。C君は「本が好き!」という子どもですが、よく聞いてみると「読んだ本の

面白さや素晴らしいさをみんなに伝えること」にわくわくすることが分かりました。そこで、町の図書館で開催されているビブリオバトルを紹介したところ、C君のやる気に火が付いたのです。このように、一人一人の「わくわくエンジン」が分かると、その子どもの何を応援すればよいのかが見えてきます。

## 自分・社会を知り、自立する

これまでの20年以上にわたる活動では、学校にとどまらず、学習支援の場所や地域施設などで、約5万6000人の子どもたちを対象に、「夢!自分!発見プログラム」を実施してきた。内容は①講演(面白い仕事人がやってくる)②ワークショップ(すきなもののビンゴ・お仕事マップ、コミュニケーションゲーム、かつこいい大人ニュース)③個別サポート(個別のアクションプログラム)で構成している。このプログラムは経済産業省「キャリア教育アワード2016」で中小企業部門の最優秀賞を受賞した。

朝山 私たちのプログラムは、まずは子どもたちの「やってみたい」と思うことを引き出すことを大切にしており、それを周りの大人たちが応援するという形です。学校

では今、「探究」の授業づくりが始まっています。例えば「SDGs」の目標があって、それを追究することが「探究」ではないと思います。大人や先生が子どもに追究すべき「枠組み」を与えるのではなく、子どもたちの本心から生まれてくるものをテーマにすることで、本当の主体性が生まれてくるのではないのでしょうか。

学校の先生方から、「本校の生徒は、みんないい子で勉強もするけれど、主体性や積極性が足りないんです」と相談を受けましたが、主体性を生み出すのは、実は簡単なことで、子どもたちの「好き」「わくわく」「やってみたい」をどれだけ引き出して、それを応援できるかが勝負なんです。まさに、「主役は子ども、きっかけは大人」です。子どもたちの成長を引き出す「夢!自分!発見プログラム」の他にも、こうしたプログラムを学校や教育現場で実施できる「わくわくナビゲーター」の養成講座、個別進路サポートプログラム「solo solo」などを実施している。

また、学校と企業、教育委員会などと連携した活動なども進めてきた。今年7月には、川崎市の中学校と富士通株式会社の川崎工場、川崎市教育委員会と連携して、生徒の保護者

を対象にしたキックオフイベント「リレートーク&クロストーク」を実施した。今後、9〜10月には、富士通の社員が参加して、生徒に仕事や自分の価値観などを語りかけ、11月にはワークショップで生徒が好きなことと世の中の仕事とのつながりを考えたり、1人1人の「わくわく」を引き出す活動を、12月以降は、生徒たちの「やってみたい！」チャレンジの発表や応援などを予定している。

朝山 「わくわくナビゲーター」というのは先生や保護者を想定しているのですが、実は子どもたちから「自分もやってみたい」という声が上がっています。ある子どもは、不登校傾向がありましたが、自分が「やってみたいこと」を周りの大人から応援してもらったことがとても嬉しかったそうで、「私の周りにも学校に行きづらい子どもがいるので、その子のわくわくを引き出してあげたい」と言っています。

## 先生にもわくわくエンジンが

学校でのキャリア教育のプログラムを実施する際には、事前に先生方向けの研修を実施しているが、「わくわくエンジン」の引き出し方などの話を聞いた教師が、「教師としてではなくて、一人の人間として子どもと向き合う

ことが大事ということが分かりました。私の『わくわくエンジン』が日々の仕事の中にあることも気付きました」と話してくれたという。

朝山 その先生は「教師をやっていて良かった」とまで話してくれました。私たちは子どもたちの「わくわくエンジン」を引き出して、周りの大人たちに応援されながら、主体性や積極性を発揮してほしいと願っていますが、これは先生の主体性や生きがいなどにもつながると思います。今、「教師のなり手がいない、ブラックな職場だ」などと言われていますが、「わくわく」したり、楽しいという気持ちを持てないで悩んでいる先生も少なくないと思います。学校という職場を先生方にとっても働きやすく、楽しい場にしていくためにも、私たちの教育プログラムを活用していただければと思います。

これからの時代に求められているのは、知識そのものよりも、それを活用したくなるような「わくわく」する気持ちや創造力、直感力、好奇心など、いわゆる非認知能力に関わる能力と言われている。

同時に、キャリア教育の在り方そのものも見直す必要がある。これまでは、「社会を知ることが中心で、自分の適性をテストなど

で理解することが多く、関わる大人も固定化されがちだった。「キーパーソン21」の独自性は、「自分を知る」ことから始めて、「わくわく」することを土台として社会や人とうつながるかを考えることで、子ども一人一人の力を引き出す点にある。また周りの大人たちも子どもたちの「やってみたい」を否定せず、心から応援してくれる。

朝山 参加する生徒が235人いたら235通りの「やってみたいこと」が出てきます。でも「できるはずがない」とか「それはお金になるのか」などと大人は否定しがちです。そうではなくて、大人は子どもの声を聞き、一方通行でない「対話」をしてあげてほしいのです。学校や家庭、地域も含めて、全ての人が子どもにとっての「キーパーソン」であるような社会を実現したいと願っています。

認定NPO法人キーパーソン21=https://www.keyperson21.org/

★朝山あつこ著「ふつうの主婦が見つけたやる気のエンジンのかけ方」[https://www.amazon.co.jp/dp/4771110271/ref=cm\\_sw\\_r\\_cp\\_api\\_i\\_6vTOfbIBHXXIW](https://www.amazon.co.jp/dp/4771110271/ref=cm_sw_r_cp_api_i_6vTOfbIBHXXIW)

★YouTube わくわくエンジンチャンネル <https://youtu.be/1e9u5FEzIVs>